

令和6年度 山形大学農学部鶴窓会庄内支部通常総会(案)

日 時 令和6年3月23日(土)

14時～

会 場 三川町「田田の宿」

次 第

1. 開 会

2. 挨拶 支部長 芳賀修一

3. 祝 辞 鶴窓会会長 菅原幸司 氏

4. 議長選任

5. 議 事

第1号議案 令和4・5年度事業報告及び収支決算の承認について
(監査報告)

第2号議案 令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)の決定について

第3号議案 役員の改選(案)について

6. 閉 会

7. 第5回 庄内農業を語る会

(1) 話題提供

① 山形大学アグリフードシステム先端研究センターの取り組みについて
講師 山形大学農学部 講師未定

② 株式会社ライズ・インの活動について
講師 株式会社ライズ・イン代表 押井秀勝 氏

(2) 質疑応答・情報交換

8. 記念撮影・懇親会

令和 6 年度鶴窓会庄内支部総会出席者名簿

No	氏 名	参 加	所 在	卒業年	備 考
1					
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
	計 名				

第1号議案

令和4年度・5年度事業報告及び収支決算の承認について

1.事業報告

- (1) 令和5年1月 4日 支部三役会議、会場、三川町「ココス」 3名参加
令和4・5年度支部総会について協議
- (2) 令和5年1月下旬 庄内支部会員名簿の整理
- (3) 令和5年3月19日 令和4・5年度庄内支部総会、鶴岡市「月山荘」19名参加
- (4) 令和5年12月18日 支部三役会議、庄内町狩川まちづくりセンター 4名参加
- (5) 令和6年1月19日 支部三役会議、庄内町狩川まちづくりセンター 4名参加

2.収支決算書(令和4年4月1日～令和6年3月31日)

(1) 収入の部

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
鶴窓会支部助成金	34,000	41,600	7,600	総会事例発表講師謝礼5,000円×2人 支部強化費31,600円
鶴窓会お祝い金	10,000	10,000	0	鶴窓会本部より
総会参加費	60,000	60,000	0	11人×5,000円、5人×1,000円
雑収入	972	0	△ 972	
繰越金	47,028	47,028	0	前年度より
合 計	152,000	158,628	6,628	

(2) 支出の部

項 目	予算額	決算額	比較増減	摘 要
名簿作成費	0		0	
総会案内ハガキ代・印刷代	0		0	本部会計より支出
資料コピー印刷代	5,000	2,000	△ 3,000	
総会・会議費	100,000	84,717	△ 15,283	総会懇親会費(月山荘) 73,000円 総会事例報告謝礼5,000円×2人 三役会お茶代1,287円+430円
写真代・通信費	10,000	0	△ 10,000	
事務費・予備費	37,000	608	△ 36,392	のし袋172円、コピー用紙436円
合 計	152,000	87,325	△ 64,675	

収入合計 158,628円－支出合計 87,325円＝71,303円の残

次年度へ繰り越し

監査報告書

令和4年度・5年度鶴窓会庄内支部の会計について、監査を実施しましたのでその結果を次のとおり報告します。

記

- 1 監査期日 令和6年2月14日
- 2 監査内容 (1) 収支決算
(2) 関係帳簿及び証拠書類
- 3 監査意見

各出納事務全般について監査した結果、収入支出ともに諸帳簿及び証拠書類と照合して正当と認める。

令和6年3月23日

監事 押井 秀 勝 

監事 藤 科 智 海 

山形大学農学部鶴窓会庄内支部

支部長 芳賀 修一 殿

第2号議案

令和6年度事業計画（案）及び収支予算（案）の決定について

1.事業計画（案）

- （1）令和6年3月23日 令和6年度総会・庄内農業を語る会 会場:三川町「田田の宿」
- （2）令和6年7月下旬 支部三役会議（支部長、副支部長、幹事長）
- （3）令和6年12月下旬 支部会員名簿整理
- （4）令和7年1月中旬 支部三役会議（支部長、副支部長、幹事長）
- （5）令和7年3月下旬 令和7年度通常総会

2.収支予算（案）

（1）収入の部 : 円

項 目	令和4・5年度	令和6年度	比較増減	摘 要
鶴窓会支部助成金	34,000	40,000	6,000	総会助成10,000円 支部強化費30,000円
鶴窓会お祝い金	10,000	10,000	0	鶴窓会本部より
総会参加費	60,000	95,000	35,000	会費 15人×6,000円、5人×1,000円
雑収入	972	1,124	152	
繰越金	47,028	70,876	23,848	前年度より
合 計	152,000	217,000	65,000	

（2）支出の部 : 円

項 目	令和4・5年度	令和6年度	比較増減	摘 要
名簿作成費	0	10,000	10,000	
総会案内代・印刷代	0	0	0	本部会計負担
資料コピー印刷代	5,000	2,000	△ 3,000	総会資料
総会・会議費	100,000	150,000	50,000	総会懇親会費、講師謝礼、会場費 役員会
写真代・通信費	10,000	10,000	0	総会写真送付
事務費・予備費	37,000	45,000	8,000	コピー用紙、タッグシール等、予備費
合 計	152,000	217,000	65,000	

収支差し引き 0 円

役員改選について(案)

No	役名	氏 名	学科・卒年	摘 要
1	顧問	阿部 重彰	農・S48	
2	顧問	高橋 敏能	農・S45	
3	支部長	芳賀 修一	農・S46	
4	副支部長	富樫 一幸	農・S57	
5	副支部長	菅原 良和	農・S52	
6	監事	藤科 智海	修・H2	
7	監事	押井 秀勝	園・S62	
8	幹事長	安藤 一雄	修・S53	
9	幹事	菅原 幸司	農化・S49	
10	幹事	阿部 敏明	農化・S50	
11	幹事	長谷川 篤夫	農・S54	
12	幹事	松坂 茂也	農・S58	
13	幹事	加来 伸天	修・H6	
14	幹事	佐藤 淑	修・H13	
15	幹事	遠藤 文子	修・H21	
	任期	(前回総会時)令和4年4月1日～令和6年3月31日		
		↓		
		(任期修正案)令和6年4月1日～令和7年3月31日		
		※ 今回限りの任期(1年)		
		鶴窓会本部の幹事、代議員の任期に合わせる。		
		次回総会より、2年任期とする。		

山形大学農学部 鶴窓会庄内支部規約

(名 称)

第1条 本支部は山形大学農学部鶴窓会庄内支部と称し、事務局は支部長宅内に置くものとする。

(目 的)

第2条 本支部は会員相互の連携と親睦を図ることを目的とする。

(会 員)

第3条 本支部は山形県立農林専門学校及び山形大学農学部卒業生、農学専攻科・大学院修了生で、庄内地域に居住する者並びに庄内地域に職を有する者をもって会員とする。

(役 員)

第4条 会員の互選により、次の役員を置き任期は二年とする。但し、再任は妨げない。
顧問 若干名、 支部長 1名、 副支部長 2名、
監事 2名、 幹事長 1名、 幹事 若干名

(事 業)

第5条 本支部の目的を達成するため次の事業を行う。
1. 総会・交流会、 2. その他

(会 議)

第6条 本支部の会議は総会と役員会とし、総会は原則として年1回・役員会は必要に応じて開催する。但し、支部長が認めた場合は臨時総会を開くことが出来る。

(会 計)

第7条 本支部の運営費は、会費とその他をもってあてる。

(会計期間)

第8条 本支部の会計期間は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

附 則 昭和60年10月12日 制定
平成10年10月20日 一部改定
平成13年 8月25日 一部改定
平成18年 7月 9日 一部改定
令和 2年10月10日 一部改定

山形大学農学部鶴窓会庄内支部 令和6年度通常総会

第5回 庄内農業を語る会(案)

と き : 令和6年2月23日(土)

午後3時から

ところ : 三川町 いろり火の里「田田の宿」

次 第

- | | | |
|--|----------------------------------|-------|
| 1.開 会 | 富樫一幸(全体進行) | 15:00 |
| 2.挨 拶 | 鶴窓会庄内支部長 芳賀 修一 | |
| 3.来賓挨拶 | 鶴窓会会長 菅原 幸司 氏
山大農学部鶴窓会の近況について | 15:05 |
| 4.出席者の自己紹介 | | 15:10 |
| 5.話題提供 | テーマ『庄内農業のさらなるレベルアップを目指して』 | |
| (1)山形大学アグリフードシステム先端研究センター(YAAS)の取り組みについて | | 15:30 |
| 発表者 : 山大農学部 講師未定 | | |
| (2)株式会社ライズ・インの活動について | | 16:10 |
| 発表者 : 代表 押井 秀勝 氏(鶴岡市箕升新田・昭和62年園芸学科卒) | | |
| 6.質疑応答・情報交換 | | 16:50 |
| 司会:山大農学部 教授 藤科智海 氏 | | |
| 7.閉 会 | | 17:30 |
| 記念撮影・懇親会 | | 17:40 |

特集

山形大学アグリフードシステム先端研究センター(YAAS)の取り組み ～農と食を繋ぐ～

山形大学アグリフードシステム先端研究センター(YAAS)について



学部長 村山 秀樹

山形大学では昨年7月に、山形大学アグリフードシステム先端研究センターを設置しました。通常、YAAS(ヤース)と称しています。全学の教育研究支援組織ですが、アグリフードがテーマということで、農学部が中心となって運営しています。

農学部では、2016年から5年間、元カルビー社長

の故松尾雅彦様のサポートにより寄附講座を開設し、食料自給圏スマート・テロワールの確立に取り組みました。YAASでは、このプロジェクトで培ってきた研究成果に、6学部からなる山形大学の総合知を有機的に融合させることにより、農と食を繋ぐスマートアグリフードシステムを確立することを目指しています。さらに志は高く、YAASを拠点としたイノベーション・コモンズを形成し、国内外で最先端のアグリフードシステム研究拠点を構築することが目標です。

YAASは、サステイナブルアグリ生産部門、高付加価値機能性フード部門、アグリフードブランディング部門、スマートフード社会システム部門の4つの部門からな

ります。サステイナブルアグリ生産部門では農業分野におけるAIの開発、気候変動に対応し進化するスマートアグリ開発研究を行っています。高付加価値機能性フード部門の研究テーマは、食品加工、発酵・醸造技術の活用、機能性食品の開発です。アグリフードブランディング部門では、新たなパッケージの開発や商品のブランディングが目標です。スマートフード社会システム部門では、健康コホートや食のリテラシーといった本学の強みである消費者側の視点で研究を行っています。

このようなYAASの取り組みは、地元鶴岡市からも理解していただき、慶應大学先端研のあるサイエンスパーク内のレンタルラボを

無償で2室提供していただきました。YAASが、様々な組織と共創することにより、

よって、農学部のパレゼンスを高めていければと考えています。

センター概要

食料自給圏(スマート・テロワール)

循環型食料生産
耕畜連携・農工連携・工商連携
(農工一体)(地産地消)



1次産業 × 2次産業 × 3次産業 = 6次産業

先進的研究拠点(YU-COE)

知識集約産業
(山形大学の総合知)



+ 4次産業

食の10次産業化

山形大学の総合知を1次、2次、3次産業に融合することにより、農と食に係わる課題を解決し、新しい社会システムを創る。



絆に感謝

株式会社ライズ・イン代表

押井 秀勝

(昭和62年園芸学科卒)



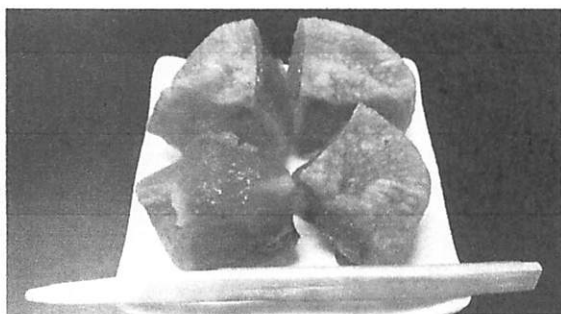
新型コロナウイルスの話
題が、マスコミ等で報道さ
れ始めてから3年が経過
しようとしています。会
員の皆様はいかがお過
ごしでしょうか？私は、今
年57歳。22戸からなる農
村集落で暮らしながら、
農業を中心に農産物を加
工したり、自分で販売を
したりするいわゆる農業
の六次産業化ということ
をやっています。

ライズ・イン設立

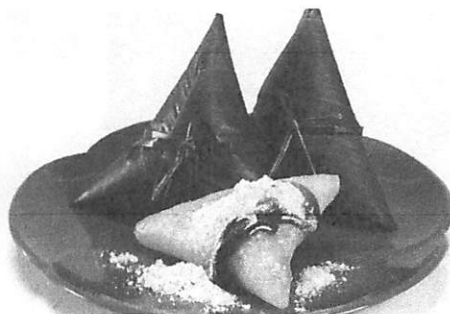
農業部門では、水田26ha
でお米を作り、野菜の苗
の生産を35,000鉢手
がけています。加工部門
では、これはお米の加工
と思っているのですが、小
さな精米プラントを持っ
ており、「日本米穀商連
合会(東京)」に所属しな
がら精米販売事業を行っ
ております。また、これら
の事業に伴ってお米の集
荷販売事業も行っており
ます。現在、契約を頂い
ている農家が70戸ほどあ
り、4市町村の生産調整
方針作成者に登録しな

がら契約農家の生産調
整も行わせていただいで
おります。その他の加工
品として、笹巻き(通年)、
干し柿、もち、米粉等が
あり、営業販売を行って
おります。加えて、無人へ
り防除・ドローン防除の経
験が18年ほどあり、ド
ローンを扱う事業の展開
を考えています。などな
ど……。株式会社ライ
ズ・イン」という会社法人
を立ち上げて15年経過、
大学を卒業して関東の同
じような法人に勉強に
行っていた息子が昨年
帰ってきて、妻と3人、社
員2人、パート3人で毎
日あたふたと仕事をし
ております。少々自己紹
介が長くなりましたが、
まだまだ頑張らなければ
ならないと思い、目覚めに
大好きな加山雄三の
「座・ロリーハーツ親父バ
ンド」を聞きながら気合
を入れております。会社
経営は難しく厳しいです
が、私がこうして仕事を
していられるのも心の支
えになつていただいでいる
家族や社員、そして友人、

私や会社に関わりを持っ
ていただいでいる全ての
方々のおかげと深く深く
感謝いたしております。



庄内柿の干柿



庄内地方の伝統食 笹巻

コロナ禍で失われたもの

・せっかくこのような機会を頂いたので、ネガティブなことは書きたくないのですが、この3年あまりのコロナ禍で何が失われたのか、何を振り返さなければならぬのか、これを心に刻まない限り前に進めな

いと思うので、身近なところで私が住んでいる集落で何が起きているのか、少し書かせていただきます。私は今、主事という集落の役員をやっています。来年4月から町内会長をやらなければなりません。町内会の行事として、総会から始まり、集落内の堰掃除、



手前が我が集落（鶴岡市箕弁新田）

小路ばらい（道路にはみ出している木々や公民館の木々の剪定）、公園の除草など。これに神事が春祭りから秋祭りまで4回あります。22戸しかない集落で、住民60名中65歳以上が32名といわゆる限界集落であります。毎回ではないですが、各行事の終わりにには、お酒を準備して懇親会を行っていました。お酒を酌み交わしながら、楽しいことや悲しいこと、困っていることなど、ワイワイガヤガヤ、これで終わりといつても帰ろうとしない人がいたり。にこやかに、晴れやかに、いい時間が流れていました。お互い話しているとかしら安心するんでしょうね。それがコロナ対策と称して、全ての飲み会は中止、総会等は短時間に、神事は全員参加ではなく町内会長と当屋（当番の家）当組（当屋の協力者）神社役員の数名だけで執り行われていきます。以前とは全く違った独特の雰囲気を感じ取れます。町内会は、町内会行事や懇親会を通してコミュニ

ケーションを深めていくことにより、スムーズな運営ができるし、平和でいられるのですが…。ただでさえ限界集落でコミュニケーションが取りずらくなってきたのに…。来年度町内会長になったら、コロナの対策を講じながら懇親会等もやっていこうと考えています。そして、コミュニケーションをとりながら、人と人との関わり、繋がりを取り戻し、以前のようなほのほのとした明るい農村をもう一回創っていいと思います。

絆の大切さ

コロナ禍の3年で失われたもの、取り戻さなければならぬもの、それは、私のところの集落に見られるように、人と人との関わりや繋がりがなくなる「絆」だと気づきました。この年になって少しは自覚はあったのですが、改めて「絆」の大切さを知りました。「絆」とは、「心の繋がります。これはまさしく私

の仕事で一番大切にしなければいけないことだと改めて思いました。私が仕事をしたいられること、生きていくことは、多くの方たちとの「絆」があるからだと、改めて感謝申し上げます。

私見ですが、コロナが日本の農業や日本の経済に与えた影響は数多くあると思いますが、日本人として「強い信頼関係」「絆」ってどういうことなのかを個々人が今一度心に刻み、皆で智慧を出し合い、新たな仕組みづくりをして、次世代に誇れる日本社会を築いていく。今この時を大切にしたいと考えています。



ナスの苗

（株式会社ライズ・イン）
TEL 0235・64・8535